

## JR勝沼ぶどう郷駅及び周辺地区における地域活性化に関する調査

## (調査の背景・目的)

- 勝沼ぶどう郷駅は甲州市の主要な観光の窓口である。現在、民間企業による駅舎の再整備が計画されており、駅やその周辺を含めた資源の活用・連携を深めることで、勝沼地域の個性や強みを活かすことが望まれている。
- そこで、勝沼ぶどう郷駅周辺における地域資源の調査を行うとともに、勝沼地域の産業動向、来訪者や住民や各種地域活動団体の意向等について調査し、この結果を基に今後の官民連携によるまちづくりのあり方や勝沼ぶどう郷駅の交通公園概略検討（基盤整備）を行う。

(調査の手順) ※赤枠は勝沼ぶどう郷駅に関すること

来訪者・住民・事業者  
ニーズ調査、関係者ヒア  
リング調査

- ・観光形態や満足度等に関する来訪者調査
- ・地域資源や整備に関する住民、事業者調査

## 基盤整備状況、資源調査

- ・勝沼地域の都市基盤整備、資源、交通状況
- ・勝沼ぶどう郷駅の敷地所有、管理運営、周辺資源

## 官民連携の方向性検討

- ・勝沼ぶどう郷駅の機能強化
- ・「つながり」による魅力向上の方策
- ・景観ブランド力の強化に向けた方策

駅前広場、駅舎施設整備の方向性

## 今後の課題

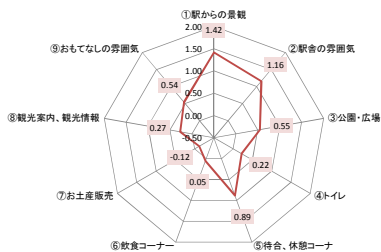
## (調査結果)

## 【主要課題1】

## 観光交流拠点機能の強化

来訪者アンケートでは、観光拠点のうち勝沼ぶどう郷駅の満足度が低く、交通結節点機能も低いことが課題であった。

## 【来訪者アンケート 駅満足度】



## 【官民連携方策1】

## 観光交流拠点である「勝沼ぶどう郷駅」での機能の強化

- 基本方針：降りてみたい、乗ってみたい、来てみたい 日本一のもてなしを感じるぶどうの郷の駅に降り立ってみたい、駅からのぶどう郷の風景を見てみたい！と思わせるロマンチックなイメージを大切に、葡萄の郷にふさわしい「もてなし」を感じてもらえるよう、使いやすい駅前広場、観光的な付加価値を高める施設整備を進め、さらには地域住民の拠点となるような駅の再生を図っていく。

## ●基本目標

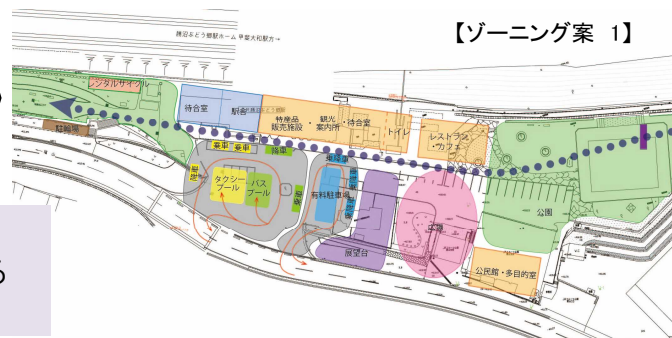
3つの基本目標を設定し整備テーマを検討

- ①勝沼観光への期待感を高める玄関口
- ②地域の身近な交流拠点
- ③賑わいと交流の場

## ●ゾーニングと導入施設検討

導入施設と整備主体、管理運営主体を検討し、土地の形状等を勘案してゾーニング案を3案検討。

## 【ゾーニング案 1】



## 【主要課題2】

## つながることで活性化が期待できる

多種多様な資源や情報、交通機能があるにも関わらず、つながっていないことが課題であった。

●組織や活動をつなぐ：組織の核となる「地域運営組織（まちづくり公社）」を立ち上げ、本組織が中心となりソフト事業を進めていく。また、勝沼ぶどう郷駅の整備や運営にも関わっていく。

●観光資源をつなぐ交通体系：駅観光交流拠点を中心として、バスやタクシーでのアクセスを充実させ、補足的にレンタサイクルの導入、歩く観光（フットパス）の取り組みを進める。

●情報をつなぐ：駅勝沼地域でのインターネット環境の整備によるタイムリーな情報提、観光交流拠点での情報、ガイドの充実を図る。

## 【官民連携方策2】

## 組織、交通、情報を繋げる

## 【主要課題3】魅力的な景観が重要ツール

## 【官民連携方策3】景観ブランド力の強化

来訪者や住民アンケートでは、勝沼地域の魅力として、「ぶどうの景観」「四季折々の景観」が挙げられた。勝沼地域の景観は、来訪者に感動を与え、さらなる賑わいを生み出すためにも重要なツールとなる。

勝沼地域の歴史や産業・生活の中で創りだされた「景観」が多くの人を引き付けていることから、勝沼地域のイメージを押し上げる景観ブランドづくりを官民連携により進める。

## 基盤整備の見込み・方向性

本調査に関する整備を進めるにあたり、周辺住民及び地域民間団体等との計画調整が必要となる。そのために基盤整備を行う環境を整え、関係機関と協議、調整を図りながら整備を行っていく予定である。平成29年度以降の事業化を予定し、ゾーニング案を元として順次整備を進めていく。

## 今後の課題

## ①勝沼ぶどう郷駅整備に向けた再検討、関係機関との協議や調整

- ・駅前広場：周辺道路への影響や来訪客数の見通し、利用者意向等を踏まえた施設規模、配置、動線等の検討。
- ・カフェ、飲食施設の整備運営：民間事業者の参画の見通しを踏まえた施設整備・運営体制等の具体化。
- ・駅全般：魅力ある観光地としての整備メニューの再検討、事業化の手法や手順等の検討

## ②計画段階からの住民・事業者の参画促進

関係機関や地元住民等と協議する機会を設け、施設整備がゴールではなく、その後の管理運営への自発的な参画を促すための手法について検討。

JR 勝沼ぶどう郷駅及び周辺地区における 地域活性化に関する調査			
調査主体	山梨県甲州市		
対象地域	山梨県甲州市	対象となる 基盤整備分野	・都市公園

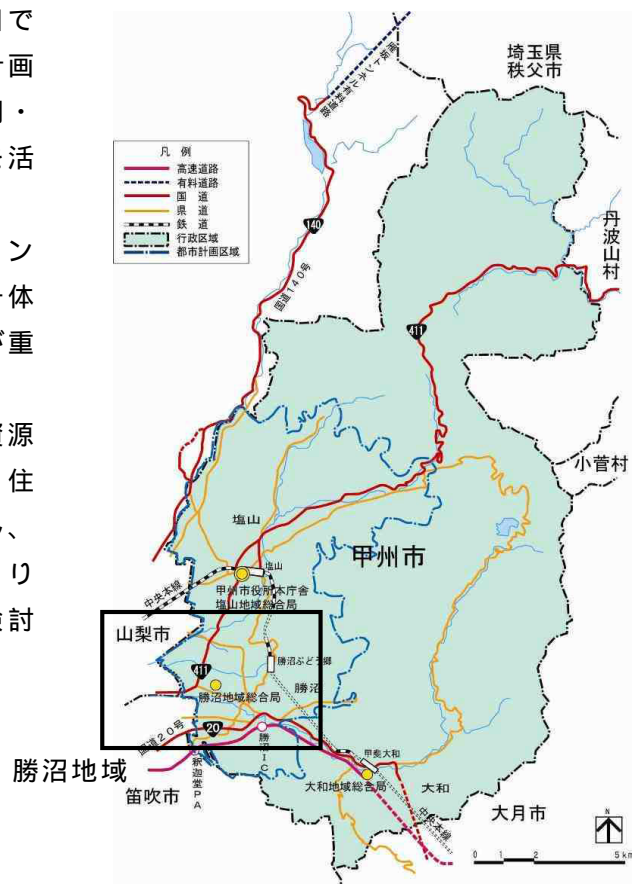
## 1. 調査の背景と目的

勝沼ぶどう郷駅は甲州市の主要な観光の窓口である。現在、民間企業による駅舎の再整備が計画されており、駅やその周辺を含めた資源の活用・連携を深めることで、勝沼地域の個性や強みを活かすことが望まれている。

具体的に推進していくためには、市がビジョンを明示しつつ、企業などの民間の事業活動と一体的に基盤整備や活性化の取り組みを行うことが重要である。

そこで、勝沼ぶどう郷駅周辺における地域資源の調査を行うとともに、勝沼地域の産業動向、住民や各種地域活動団体の意向等について調査し、この結果を基に今後の官民連携によるまちづくりのあり方や勝沼ぶどう郷駅の交通広場概略検討（基盤整備）を行ったものである。

【甲州市と勝沼地域】



## 2. 調査内容

### (1) 調査の概要と手順

本調査は、観光交流拠点として検討する「勝沼ぶどう郷駅」と「駅周辺の勝沼地域」に分けて、来訪者や住民意向、都市基盤整備状況、観光資源等について整理し、官民連携による観光まちづくりの必要性及び整備や活用の方向性について検討する。

調査期間：平成 27 年 10 月中旬～2 月下旬

対象箇所：来訪者（勝沼ぶどう郷駅、及び勝沼地域の主要観光施設）

調査項目：A：来訪者及び事業者、住民、関係者等のニーズ調査、現地の資源等の調査  
（来訪者 255 サンプル 事業者・住民：60 サンプル ヒアリング：11 団体）

B：基盤整備や資源調査

C：官民連携の方向性（地域活性化方策、勝沼ぶどう郷駅の概略検討）

【調査対象範囲】



【調査手順（実施フロー）】

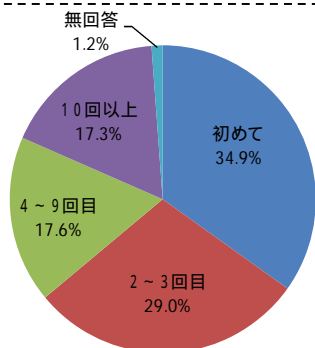
	【駅周辺の勝沼地域】	【勝沼ぶどう郷駅】
<p>A：観光ニーズ、地元ニーズ調査、関係者ヒアリング調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来訪者の認知度や行動目的、機能の満足度や意向について調査・分析</li> <li>・ 住民や事業者の満足度、ニーズについて調査・分析</li> </ul>	<p>1. 来訪者及び住民・事業者等のニーズ把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来訪者：主要観光施設や勝沼ぶどう郷駅でのヒアリング調査</li> <li>・ 市民：駅周辺の菱山地区全世帯調査</li> <li>・ 事業者：勝沼地域の主要観光事業者、観光農園事業者</li> </ul>	
	<p>2. 関係者ヒアリング調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅関係者：JR、JA、観光交流課、ぶどうの丘公社</li> <li>・ 交通事業者：市民バス、民間バス、タクシー業者</li> <li>・ まちづくり団体：NPO 勝沼文化研究所、甚六桜の保存会</li> </ul>	
<p>B：基盤整備や資源調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史文化や観光資源やイベント、歩く観光の取り組み等、基盤整備状況について調査</li> </ul>	<p>3. 地域の現況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史・文化調査</li> <li>・ 都市基盤整備調査</li> <li>・ 観光資源・イベント状況</li> <li>・ フットパスルート調査</li> </ul>	<p>4. 勝沼ぶどう郷駅の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史の変遷調査、利用状況</li> <li>・ 敷地所有状況</li> <li>・ 整備及び管理・運営状況</li> <li>・ 周辺整備状況（観光資源、観光ルート）</li> </ul>
		<p>5. 問題点・課題</p>
<p>C：官民連携の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A及びBを踏まえて、官民連携における地域活性化方策について検討。</li> <li>・ 勝沼ぶどう郷駅におけるゾーニング等の概略検討。</li> </ul>	<p>6. 官民連携に向けた基本方針</p>	
	<p>7. 地域活性化に向けた 方策検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光交流拠点の充実</li> <li>・ 繋がる事での魅力向上方策</li> <li>・ 風景ブランドづくり</li> </ul>	<p>8. 駅前広場・駅舎施設の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本目標・整備テーマ</li> <li>・ 導入施設の検討</li> <li>・ ゾーニング、動線検討（3案）</li> <li>・ 施設配置検討（3案）</li> </ul>
	<p>9. 今後の課題</p>	

## (2) 調査結果

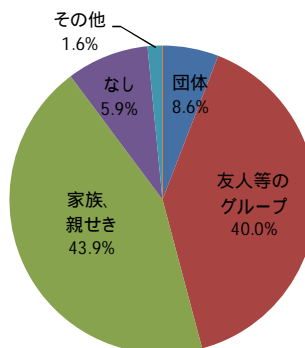
### (1) 勝沼地域及び来訪者の特性

#### 来訪者アンケートから見る特性

来訪者の特性：リピーターや個人・小グループが多い。

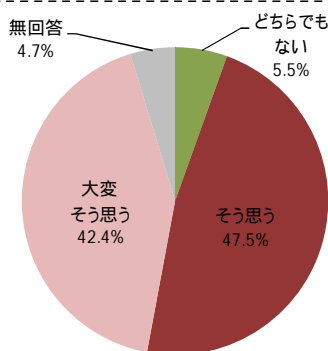


【来訪者アンケート：来訪頻度】

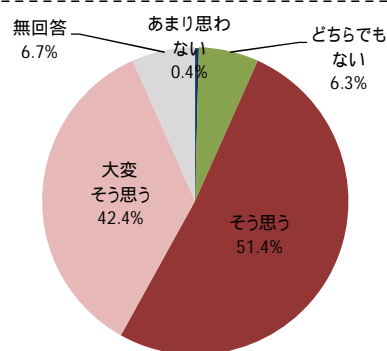


【来訪者アンケート：同行者】

再来訪や紹介の意向：再来訪や紹介意向が高く、来訪者の9割以上を占める。



【来訪者アンケート：再来訪意向】



【来訪者アンケート：紹介意向】

#### 地域資源や基盤整備状況

現地では、観光資源や歴史・文化遺産等の分布状況のほか、交通状況、歩く観光ルート、イベント開催状況等について調査・整理を行った。また、勝沼ぶどう郷駅の観光拠点としての活用に着目し、勝沼ぶどう郷駅の状況（敷地の所有者・管理者関係、乗降客数の推移、問題箇所の把握等）と周辺状況（都市基盤整備状況、観光資源との連携、交通アクセス等）について調査・整理を行った。

#### 【勝沼地域と勝沼ぶどう郷駅の調査結果概要】

項目	概要
位置・アクセス	・首都圏から100km圏内であり、車や電車で1.5～2時間でアクセスできる。駅利用者は増加傾向にある。
来訪者の状況	・勝沼地域はやや微増である。季節的な変動が激しく繁忙期は7～10月（40万人/月）であり、繁忙期の来訪者数は閑散期の約5～7倍ある。
資源	・歴史文化資源、観光資源、観光農園（100箇所以上）、ワイナリー（30箇所以上）が分布している。日本一のワイナリー集積エリアである。 ・ぶどう畑に集落が点在する独特な景観が広がる。景観を守り活かす取り組みが進められ、世界農業遺産の登録を目指している。 ・勝沼ぶどう郷駅には、近代化産業遺産に指定されている大日影トンネル、勝沼トンネルワインカーヴがあり、トンネルを歩く観光ルートとしても

項目	概要
	活用されている。
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁忙期を中心に定期的なイベントが開催される。毎年、このイベントを楽しみに訪れるリピーターが多い。</li> <li>・イベントには、ワイナリーや観光農園の参加が多い。</li> </ul>
駅の敷地・管理運営状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地は甲州市、JAフルーツ山梨、JRが所有している。駅舎北側やJAフルーツ山梨の敷地以外は、主に市で管理・運営している。</li> <li>・駅前広場は暫定利用であり、繁忙期は、バスやタクシー、一般車両、観光バスが錯綜しトラブルもある。</li> </ul>
駅からの交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅からの二次交通は市民バス、タクシー。平成27年から民間の周遊バスが運行している。(繁忙期、週末のみ)</li> <li>・平成28年度には、勝沼地域でレンタサイクルが導入される予定。</li> </ul>
駅周辺の基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅員6m未満の歩道のない道路が殆どである。10年以上前からフットパス(歩く観光)の取り組みが進められ、近年では歩いて観光する来訪者も多い。</li> </ul>

### 主要課題その1：観光交流拠点機能の強化

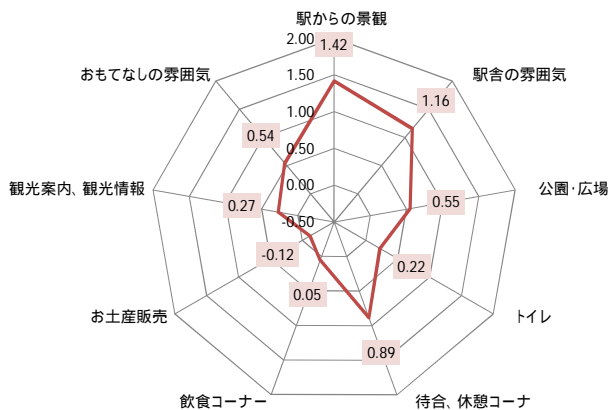
勝沼地域には、4つの主要観光拠点があり官民連携の取り組みが進んでいる。勝沼ぶどう郷駅での来訪者満足度は低い。また、事業者・住民からも機能充実にに向けた要望が高い

・勝沼地域では、大きく4つの拠点がある。甲州市、ぶどうの丘公社、民間事業者がそれぞれ整備・運営を図っている。

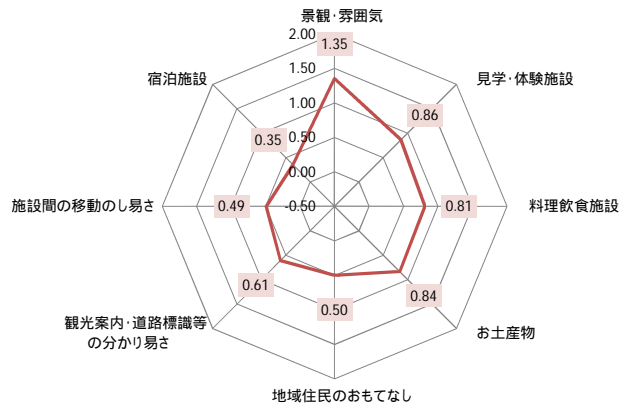
観光交流拠点	交通	情報	食べる	お土産	史跡・観光	くつろぐ	集まる	泊まる	
勝沼支所	・市民バス ・周遊バス ・レンタサイクル ステーション	・情報ステーション (コンビニ、情報ステーションの官民連携で)				・広場	・集会室 ・公民館 ・子育て 支援センター		
ぶどうの丘	・市民バス ・周遊バス	・パンフレット設置	・レストラン ・バーベキュー ・軽食	・ワイン ・お菓子等	・ワイナリー ・温泉	・広場 ・散策路	・イベントホール	・ホテル	
宮光園	・市民バス ・周遊バス ・ワインタクシー	・観光ボランティア ・パンフレット設置	・レストラン	・ワイン	・宮光園 ・メルシャン資料館	・散策路 ・広場 ・散策路			
勝沼ぶどう郷駅	・JR ・市民バス ・周遊バス ・レンタサイクル ステーション	観光案内所	・軽食	・ワイン ・お菓子等	・大日影トンネル ・プラットホーム跡	・広場 ・散策路 ・公園	・公民館		民間 公社 甲州市

・来訪者アンケートでは、「勝沼ぶどう郷駅」「主要観光施設」の施設満足度を比べると、勝沼ぶどう郷駅におけるお土産販売や飲食施設・観光案内の満足度はやや低く、機能強化が求められる。

【来訪者アンケ：勝沼ぶどう郷駅の満足度】

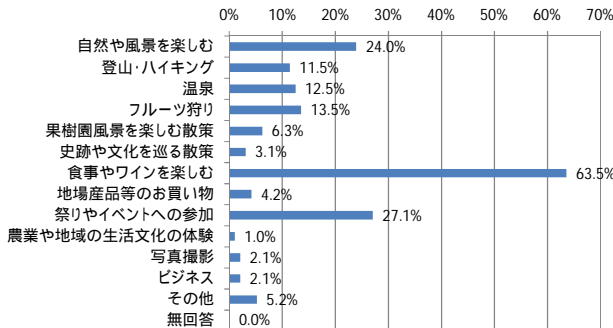


【来訪者アンケ：主要観光施設の満足度】

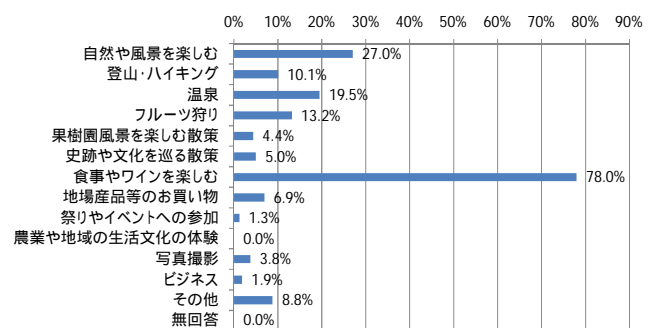


・鉄道利用者が増えており、来訪目的が食事や飲酒を目的とした人が多いことを考慮すると、今後鉄道利用が増える可能性が高く、勝沼ぶどう郷駅の機能強化が求められる。

【来訪者アンケート（勝沼ぶどう郷駅）来訪目的】



【来訪者アンケート（主要観光施設）来訪目的】



## 主要課題その2：繋げることでさらなる活性化が期待できる

### 組織や活動を繋げる

- 様々な組織や活動団体や観光資源があるが、それを繋げる中心的な組織や取り組みがない。中心的な組織を作り、活動や情報を繋げることで魅力向上を図る必要がある。

### 情報を繋げる

- ロケ地や観光地等としてマスコミに取り上げられるなど知名度は高い。リピーターの多くは事前に情報を入手しており、ピンポイントでの観光形態が多い。何も情報がなく観光に訪れるた場合の観光案内機能が弱い。観光情報や周遊機能を強化する必要がある。

### 観光ポイントを繋げる

- 公共交通網として、市民バス、民間周遊バス（土日祝日の繁忙期のみ）があるが、一時間に1本程度であり、使い勝手が悪い。主要観光拠点が2~3km離れており、標高差によるアップダウンが激しく、観光拠点同士を結ぶ公共交通網を強化する必要がある。
- 10年ほど前からフットパスの取り組みが進められており、歩く観光が根付きつつある。定期的なイベントが開催されており、歩く速度で地域を感じ、地域の魅力を知ってもらう観光を推進する必要がある。

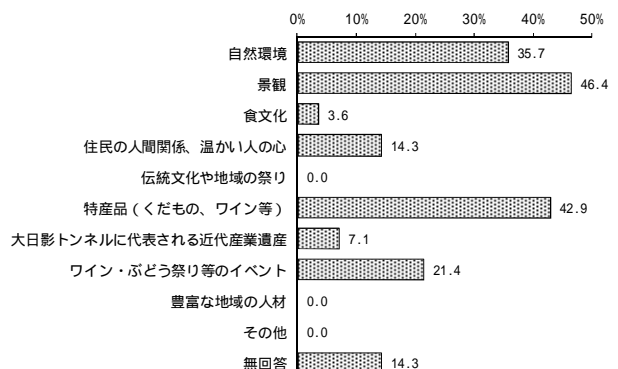
## 課題その3：景観ブランド力を強化する

- ぶどう畑に集落が点在する独特な風景が広がっており、季節毎に変化する風景を楽しみに訪れる来訪者も多い。さらに、地域住民や事業者においても景観資源を活かしたいといった要望が高い。平成25年には甲州市景観計画が施行され、景観に関するイベントやシンポジウムの開催が増えており住民意識も高い。景観を重要資源として守り活かしていく必要がある。

【来訪者アンケート：満足度】

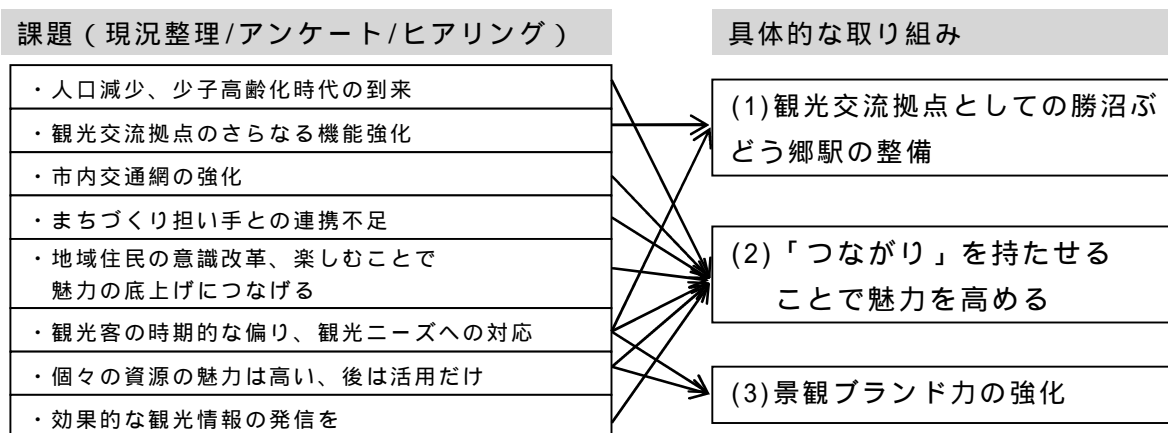
勝沼ぶどう郷駅	主要観光施設
1番：駅からの景観	1番：景観・雰囲気
2番：駅舎の雰囲気	2番：見学・体験施設
3番：公園・広場	3番：お土産

【地域住民アンケート：勝沼地域の魅力】



### 3. 基盤整備の見込み・方向性

官民連携を図りながら地域が抱える課題を解決し、地域の活性化に取り組んでいくための方策を以下のように設定した。



#### (1) 観光交流拠点としての勝沼ぶどう郷駅の機能強化

##### 基本方針

勝沼ぶどう郷は、中央線開通以来 100 年の歴史を語る中で圧倒的な存在感と普遍的な存在、それは「ぶどう」である。駅名も平成に「勝沼ぶどう郷駅」と改名しているように、この地域では江戸時代から続く産業であり、全国に知れ渡る特産物である。

菱山のぶどう畑一式の丘陵地、それにつながる甲府盆地さらには南アルプスへの眺望景観は、この地を訪れた人に「懐かしさ」と「感動」を与える普遍的な原風景であり、四季を通じて様々な顔を感じることができる場である。

この駅に降り立ってみたい、駅からのぶどう郷の風景を見てみたい！と思わせるロマンチックなイメージを大切に、実際にこの地を訪れた人が、葡萄の郷にふさわしい「もてなし」を感じてもらえるよう、使いやすい駅前広場、観光的な付加価値を高める施設整備を進め、さらには地域住民の拠点となるような駅の再生を図っていく。

**降りてみたい、乗ってみたい、来てみたい 日本一のもてなしを感じるぶどうの郷の駅**

##### 基本目標と整備テーマ

###### 勝沼観光への期待感を高める玄関口

- ・勝沼ぶどう郷駅地域の玄関口として、各種交通空間がスムーズに連携できる公共空間の整備を行う
- ・食・お土産を楽しむ場、勝沼の歴史を感じる美しい景観形成により、訪れた人の期待感を高める空間形成を図る。

###### 【整備テーマ】

- 交通手段相互の乗り換え・乗り継ぎの円滑な処理
- 勝沼観光の期待感を高める特産品・食の提供
- 勝沼らしい風景やイメージの創出
- 勝沼の魅力情報の発信・案内
- ニーズに対応する利便機能の充実

###### 地域の身近な交流拠点

- ・地域住民にとっても、この地を拠点として、観光客との交流や歴史を学ぶ場、景観を楽しむ場として、常に人の温かみのある場とする。

###### 【整備テーマ】

- 子どもたちの遊び・体感・学習
- 集いの場づくり

### 賑わいと交流の場

- ・住民と観光客が交流する場や機会を設けることで、最終的には人のぬくもりとおもてなし感がある場とする。

### 【整備テーマ】

- 賑わいと交流の場となる空間づくり
- ユニバーサルデザインによる人にやさしい空間
- 勝沼の歴史文化への誘い・歩く観光の推進

### ゾーニング毎の導入施設と考え方

整備テーマを踏まえてゾーニングを設定し、ゾーニング毎の導入施設を検討する。

基本的なゾーニングと導入施設、施設整備の考え方は次の通りである。また、関係者との話し合いやヒアリング等を通して整備主体と管理運営主体を検討した。

ゾーニング	導入施設	施設整備の考え方	整備主体	管理・運営主体
玄関口ゾーン	バス乗降場	乗降場と降車場を分離し、市民バス（市）民間の周遊バスが待機できる空間を確保する。	市	市
	タクシー乗降場	乗降場と降車場を分離し安全性を確保する。		
	タクシープール	観光農園等の送迎バスの停車スペースを確保する。		
	一般車乗降場	駅舎からの景観を損なわない場所に配置する。		
	一般車駐車場	公共交通と輻輳しない場所に配置する。		
	駐輪場	歩行者や車両の動線と輻輳しない場所に配置する。		
賑わい交流ゾーン	観光案内所	駅改札口の近くに配置し、出迎いの雰囲気ある雰囲気とする。	市	市・民間ボランティア
	トイレ (多目的トイレ)	授乳・オムツ替えなどのできる空間や子供トイレ等も整備し、誰もが使いやすい広く明るいトイレとする	市	市
	待合室	屋外の景色が楽しめるよう、屋内・半屋外型のオープンな仕様とする。	市	民間
	公民館 (多目的室)	主に地域住民が利用する多目的室であるが、来訪者にも開放し、くつろげる空間とする。また、外の形式が楽しめる様、縁側のような張り出し空間を確保する。	市	民間(活用の仕掛け)
	特産品販売施設	地域ならではの魅力ある特産品、直売品を販売する。	市 民間	民間
	飲食施設(カフェ、レストラン)	景色を楽しみながら、お茶や食事ができる場所に配置する。	民間	民間
	イベント広場	人だまりのある空間として、木陰や可動式のベンチを設置し、自由に使える空間とする。	市	市 民間(活用の仕掛け)
レンタサイクル	駅から二次交通を担う自転車を配置する。歩行者や車両の動線と輻輳しない場所に配置する。	市	民間	
歴史探索	公園・近代産業	駅の北側、南側の公園は現況利用とし、駅利用者がそちらに足を運びたくなる	市	市 民間(活用)



ゾーニング	導入施設	施設整備の考え方	整備主体	管理・運営主体
ゾーン	遺産	ような仕掛けを行う。	(整備済み)	の仕掛け)
	遊歩道	公園や旧ホーム、大日影トンネルへ足を延ばしてみたいと思わせる様に、サインの充実や視覚的な効果、歩きやすい仕掛けを行う。	市 (整備済み)	市 民間(活用の仕掛け)
その他	A T M ・ コインロッカー	要望の高い利便施設については、地元民の利用も考慮して配置を検討する。	民	民

### ゾーニング検討

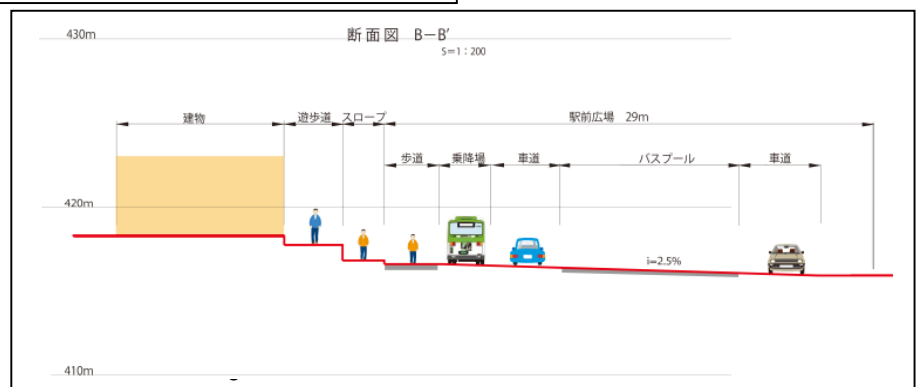
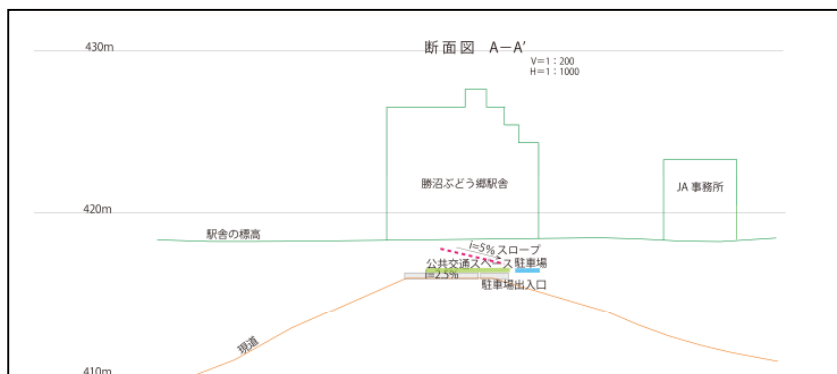
土地の形状等を勘案して、ゾーニング案(3案)を検討した。

また、駅舎は高台に位置し、駅前広場に接道する県道と駅舎との間に高低差が生じることから、ゾーニング案毎に断面検討を行い実現性について検討した。

### 【ゾーニング 案1 平面図】



### 【ゾーニング 案1 断面図】



(2) PPP・PFI等の導入検討し、「つながり」を持たせることで魅力を高める方策

組織や活動をつなぐ：地域組織と連携する官民連携「組織」スキーム

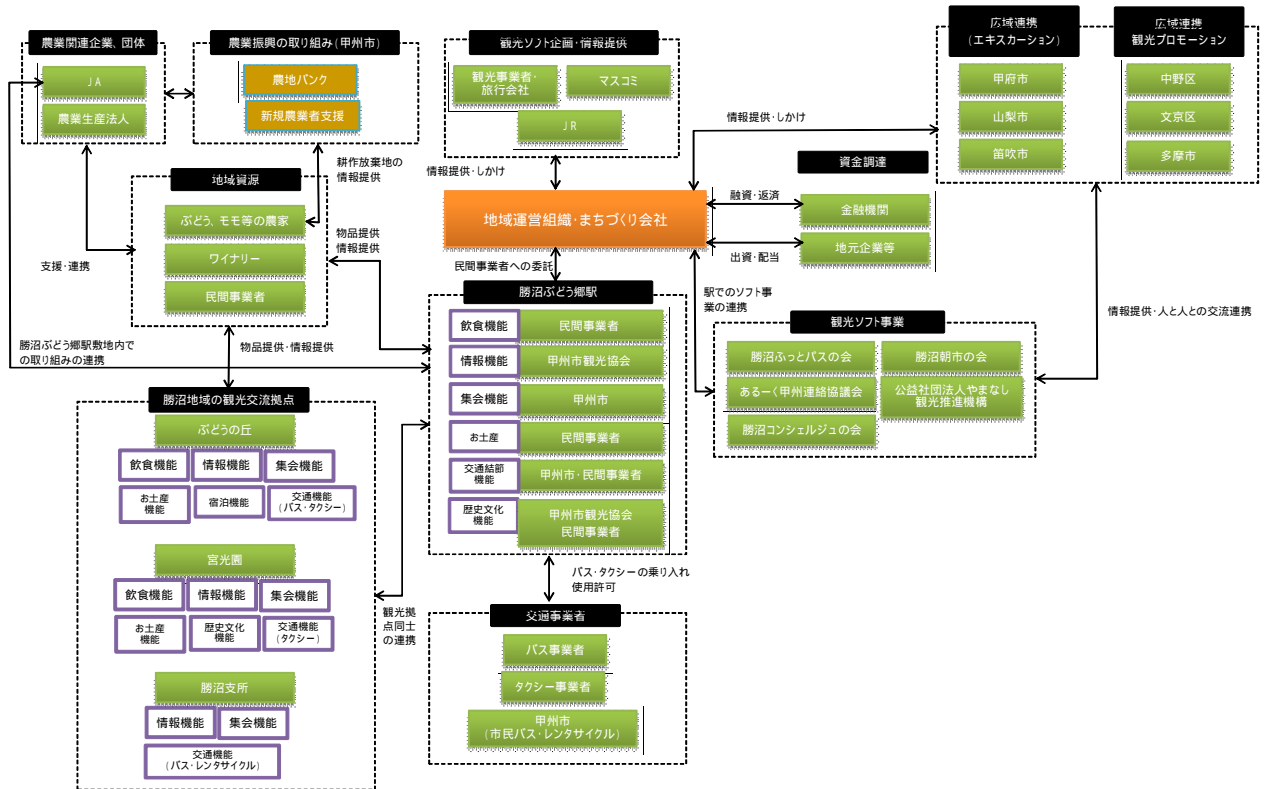
観光関連の団体や地域まちづくり団体が存在するものの、連携する機会が少ないことから、各種組織や観光事業者がつながり、協力することで、魅力ある取り組みを進める。

核となる「地域運営組織(まちづくり会社)」を出資して立ち上げ、この組織が中心となって、ハードやソフト事業を進めていく。また、勝沼ぶどう郷駅での取り組みについては、本組織が中心となり進める。

【効果】

- ・観光まちづくりの方向性を踏まえ上で勝沼ぶどう郷駅における自由な事業展開が可能となる。
- ・甲州市が行っていた観光振興や耕作放棄地・新規農業者支援の取り組み等を、地域運営組織が包括的に行うことにより、地域全体への波及効果が期待できる。

【官民連携による組織連携のイメージ】



観光資源をつなぐ：回遊性を促す官民連携「交通」スキーム

勝沼地域における公共交通は、「市民バス」「民間周遊バス」「タクシー」がある。観光施設が散在し、扇状地特有の坂が多い地形であることから徒歩のみの移動は厳しい。

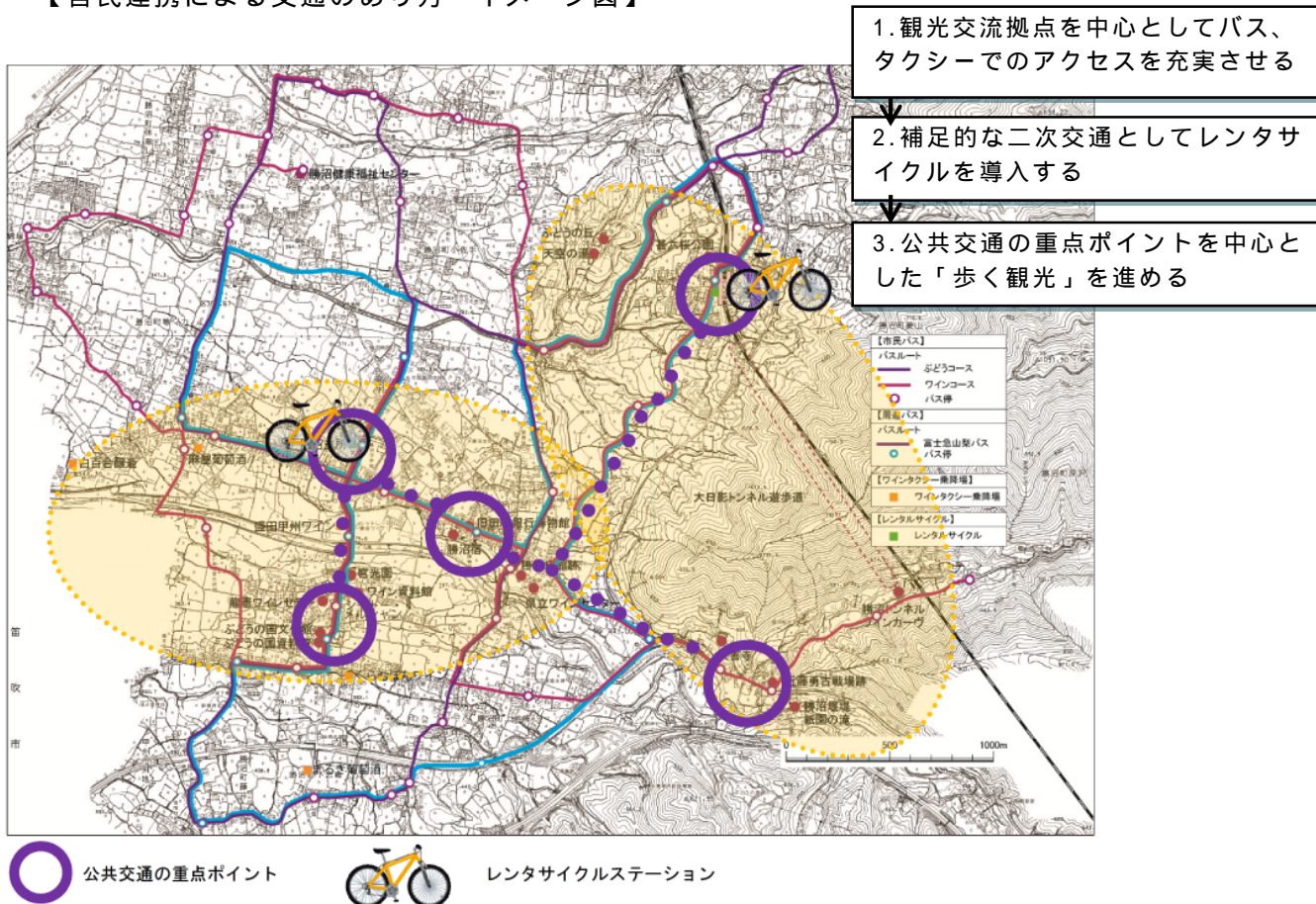
旧勝沼町時代から、農道等を利用した「歩く観光」(フットパス)、つまり歩く速度で勝沼地域の魅力を体感してもらう取り組みが進められ、観光の一つとして根付きつつある。

「公共交通」+「フットパスルート」を組み合わせることで、様々な楽しみ方を提供し、現況の運営主体を活用しながら官民連携により推進する。

【効果】

- ・現況で利用されている公共や民間の交通手段を有効に活用することにより、新規投資することなく、採算性の高い組みが可能となる。
- ・歩く観光を進めることで、さらなる魅力発見につなげリピーターを増やす。

【官民連携による交通のあり方 イメージ図】



情報をつなぐ：情報の質を高める官民連携「情報」スキーム

勝沼地域の観光情報を入手する主な方法として、「観光案内所」「甲州市観光協会HP」「各種パンフレット」「民間事業者の個別HP」「マスコミ」「個人ブログの口コミ」等がある。

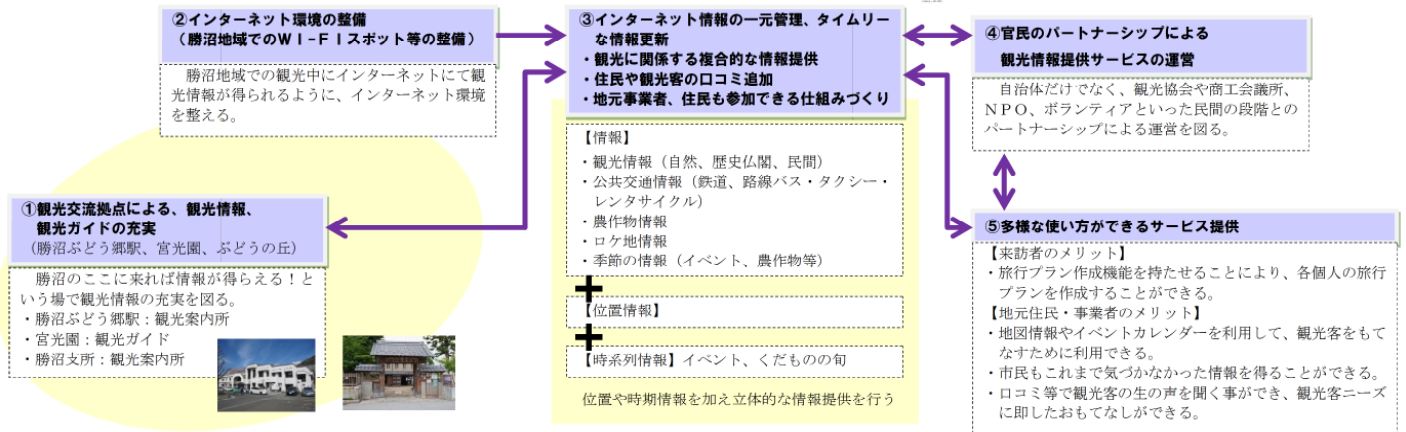
来訪者アンケートでは、インターネットや口コミによる情報収集が多い。また、事業者アンケートでは、インターネットによる情報発信が多く、勝沼ぶどう郷駅で整備して欲しい機能として「情報発信」「観光案内機能」が多く挙げられた。

近年、情報通信ネットワーク技術の向上・普及により、扱われる観光情報の量も飛躍的に増大し、ブログやSNSにより観光者同士がリアルタイム性の高い観光情報を手軽に交換し合っている。観光情報の感度を高めるため、インターネットをはじめとするICT利用を考慮した官民連携の取り組みを進める。

【効果】

- ・勝沼地域内におけるインターネット環境を整備することで、観光に関するタイムリーな情報を引き出し、多様な観光ニーズに対応することができる。
- ・ここ（観光拠点）を訪れば観光情報が入手できる、という場として、勝沼ぶどう郷駅の情報機能を強化し、ボランティア等の人員を配置することで、地域の魅力や生きた情報を伝えることができる。

## 【官民連携による情報環境整備イメージ】



### (3) 景観ブランド力の強化

勝沼地域の魅力として、来訪者や地域住民アンケートでは、「ワイン」「くだもの等の特産品」に加えて「ぶどうの景観」「四季折々の景観」が挙げられている。勝沼地域の景観は、来訪者に感動を与え、さらなる賑わいを生み出すためにも重要なツールとなる。

勝沼地域の歴史や産業・生活の中で創りだされた「景観」が多くの人を引き付けていることから、勝沼地域のイメージを押し上げる景観ブランドづくりを官民連携により進める。

#### 【効果】

- ・地域住民が楽しみながら景観づくりを進めることができる仕掛けを行うことで、自発的・継続的な取り組みが期待できる。
- ・来訪者による甲州市での活動人口を増やすことで、リピーターを増やすことにつながる。

#### 【風景ブランドづくりのための官民連携】

取り組み	官		民	
地域産業との連携	【市】	ぶどうの廃材利用による自然エネルギーの仕組みづくり	【地元住民・事業者】	ぶどう廃材の提供
	【市】	公共施設等による自然エネルギーの整備	【観光事業者・企業等】	ぶどう等の廃材による体験ツールの企画、運営
	【市】	農地バンクの仕組みづくり	【地元住民】	農地に関する情報提供
	【市】	新規農業者の掘り起こし	【地元住民】	技術指導
景観づくりへの取り組み	【県・市・周辺都市】	景観に関するイベント、勉強会の開催	【観光事業者・企業等】 【地元住民】	イベント、勉強会への協力、風景づくりへの参加
	【市】	景観ボランティアの育成		参加、協力
	【市】	景観重点地区の設定、指導		

民間・住民  
甲州市等

#### 4 . 今後の課題

本調査において、勝沼地域の現状や勝沼ぶどう郷駅の方向性を検討したことにより、鉄道事業者や民間事業者・地元と課題の共有を図り、今後の方向性について議論することができた。

勝沼地域は、多種多様な資源を有し、首都圏のアクセスも良く、今後とも活性化する可能性のある地域である。

また、勝沼地域の出入り口でもある勝沼ぶどう郷駅を、来訪者の期待を裏切らない魅力ある場とすることで、ぶどうの郷にふさわしいもてなしを感じてもらうことが重要である。

今後とも関係者と協議しながら、勝沼ぶどう郷駅及び周辺整備に向けた基本計画を検討する必要がある。

以下に今後の検討課題を整理する。

##### 勝沼ぶどう郷駅整備に向けた関係機関との協議・調整

- ・交通結節点としての駅前広場については、周辺道路への影響や来訪客数の見通し、利用者意向等を踏まえた施設規模、配置について検討する。
- ・土地所有関係が複雑であることから、所有者・管理者区分を明確にしながら検討を進める。
- ・カフェ、飲食施設の整備運営にあたっては、民間事業者の参画の見通しを踏まえ、施設整備や運営体制等について具体化する。
- ・地元食材にこだわったメニュー開発や風景を堪能しながらのワイン試飲等、駅自体が魅力ある観光拠点となる工夫を行う。

##### 計画段階からの住民・事業者の参画促進

- ・官民連携による地域づくりを進めていくためには、検討段階からの住民の参画を促すことが重要である。施設整備については、関係機関だけでなく地元住民等とも協議する機会を設け、施設整備がゴールではなく、その後の管理運営への自発的な参画を促す。